

## 感染症拡大沈静化後の専門科目フルオンデマンド授業継続の試み

### An Attempt to Continue Full On-Demand Classes after Stabilization of the Infectious Disease Spread

阿部 一晴 酒井浩二  
Issei ABE Koji SAKAI  
京都光華女子大学 キャリア形成学部  
Email: i\_abe@koka.ac.jp

あらまし：感染症拡大に伴い、本学でも 2022 年度まで多くの講義系専門科目をオンデマンド授業として提供した。2023 年度以降も少数の科目はオンデマンドを継続したものの、従来どおり大学には通学することを基本とし、ほとんどの科目が教室での対面授業に戻った。一方感染症拡大とは無関係に、オンデマンド授業の方が受講生にとって利便性や学習効果が高いのではないかという分析もあり、一部の専門科目を再度オンデマンドに戻すことにした。一連の授業形態の変更による受講生の評価の違いから見える、オンデマンドによる専門科目授業提供の可能性について検討した。

キーワード：感染症拡大、講義科目、オンデマンド授業、対面授業、授業評価

#### 1. はじめに

2020 年度期初からの感染症拡大に伴い、大学における授業の方法も大きく変化せざるを得なくなった。2020 年度は様々な混乱の中、試行錯誤を繰り返し、ある意味特別扱いの一年であったとも言える。2021 年度からは感染症ありきとなり、学生が大学に通学することが当たり前ではないことがノーマルという前提での授業運営に移行した。筆者も、ゼミ以外の講義科目をすべて（前期 4 科目・後期 4 科目）非同期型のオンライン授業（オンデマンド）で提供した。本学では、ちょうど 2021 年度後期に授業支援システムの更新があり、オンデマンド等のオンラインによる授業への対応が従来よりも容易になる環境が整いつつあったことも助けとなった。

一方、2023 年度は感染症の法的扱い等が変化したこともあり、オンライン対応としていた講義系科目も基本的に従来どおりの対面授業に戻して提供することとなった。上記 8 科目もすべて対面授業とした。しかし、学生からは時間割の配当その他からオンデマンド授業を望む声もあり、また授業担当者としても受講生の授業への取り組み姿勢や学習効果においてオンデマンド授業には対面授業よりもメリットを感じる面もあった。このため、2024 年度にこのうちより専門性の高い 3 年次以上配当の 2 科目を再度オンデマンド授業として提供することとした。

#### 2. 対象授業の受講者数について

筆者の所属する学科は、特定のディシプリンに依存せず、比較的幅広い領域の科目を受講できることが特徴となっている。その中で、筆者はビジネス・経営系科目を中心に担当している。今回比較の対象とした授業科目もそれらの分野に含まれる。表 1 に各科目の受講登録者数を示す。（2024 年度にオンデマンドに戻さず対面授業で提供した 2 科目を含む）

表 1：年度別科目受講登録者数

	2022年度 (オンデマンド)	2023年度 (対面)	2024年度 (オンデマンド)
科目A	53	23	41
科目B	43	11	34
科目C	42	23	
科目D	70	6	

本学科のカリキュラムは、必修科目が少なく自由に選べる科目が多く、各科目とも例年ほぼ同程度の受講者数があるのだが、2022 年度に比べて 2023 年度の受講者数が減少していることがわかる。選択受講対象となる学年全体の学生数は各年度でほぼ同一である。一方、2024 年度にオンデマンド授業に戻した 2 科目は 2023 年度より受講者が増加している。

#### 3. 受講生の授業評アンケート回答率の比較

本学では、全学統一で授業評価をおこなっているが、筆者はそれとは別に最終授業と期末試験終了後に独自の授業アンケート（オンライン回答）を実施している。表 2 に各科目の回答率を示す。

表 2：年度別受講生授業アンケート回答率

	2022年度 (オンデマンド)	2023年度 (対面)	2024年度 (オンデマンド)
科目A	49.1%	52.2%	48.8%
科目B	48.8%	45.5%	47.1%
科目C	38.1%	56.5%	
科目D	52.9%	不開講	

この種のアンケートとしては、相対的に回答率は低めではあると考えられるが、オンデマンドか対面かの差異は大きくは感じられなかった。

#### 4. 受講生の授業評価の比較

2022年度オンデマンド授業、2023年度教室での対面授業、2024年度オンデマンド授業でほぼ同じ内容を提供した2科目で、授業評価アンケートの結果には科目ごとに大きな違いはなかった。以下に比較的受講生が多く、回答率が相対的に高かった科目A受講生の各年度の評価結果を示す。

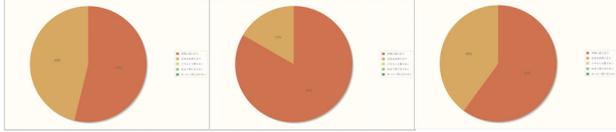


図1：この授業で学んだことは今後の自分にとって役に立つと思いますか？

一つ目の設問では、授業で学んだことが今後役立つと考えるかどうかを尋ねた。「非常に役に立つ」が対面 83%、オンデマンド 54%・60%（2022年度・2024年度）と明らかに傾向が異なっていることがわかった。（対面の方がポジティブ）

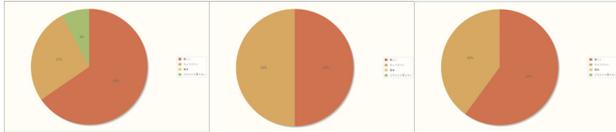


図2：この授業の内容は難しかったですか？

次に授業内容を難しいと感じたかどうかを尋ねたが、この設問も「難しい」が対面 50%、オンデマンド 65%・60%と少し違いがあった。（オンデマンドの方がネガティブ）

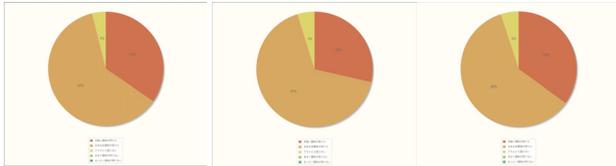


図3：この授業の内容に興味がありましたか？

次の授業内容に興味を持てたかという設問では、「非常に興味を持てた」「興味を持てた」を合わせて対面 95%、オンデマンド 97%・95%という回答となった。（対面・オンデマンドで差異なし）

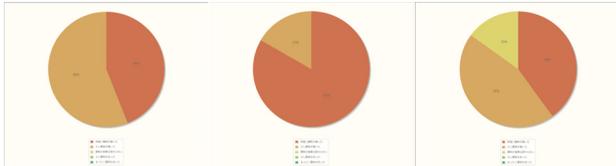


図4：この授業を受ける前に比べて、社会や企業といったものへの興味は変化しましたか？

授業を受けたことで関連分野への興味は変化したかどうかについては、「非常に興味湧いた」が対面 83%、オンデマンド 44%・40%という回答であった。（対面の方がポジティブ）

これらの回答から、対面授業とオンデマンド授業に対する受講生の捉え方に一定の傾向（全般的に対面授業への評価が高い）があることが読み取れる。

#### 5. 受講生の成績比較

受講生の授業評価比較の対象とした科目Bの2022年度（オンデマンド）、2023年度（対面）と2024年度（オンデマンド）の最終的な成績は表3のとおりである。

表3：年度別科目A受講生の成績

	2022年度 (オンデマンド)		2023年度 (対面)		2024年度 (オンデマンド)	
A+	4	8%	8	35%	9	22%
A	14	26%	6	26%	12	29%
B	7	13%	2	9%	4	10%
C	15	28%	1	4%	2	5%
D	1	2%	0	0%	4	10%
K	12	23%	6	26%	10	24%
合計	53	100%	23	100%	41	100%

途中で受講放棄した率はいずれの年度もほぼ同じ（当初受講登録者の約4分の1）であったが、最後まで受講して期末レポートを提出した学生の成績はオンデマンドか対面授業かで傾向差はなかった。成績評価の基準は同一であったので、年度毎の受講生の個別差による結果ではないかと考えられる。

#### 6. まとめ

今回の授業評価アンケート比較から、受講生はオンデマンド授業よりも教室での対面授業を高く評価する傾向が読み取れた。ただし、最終的な成績はオンデマンド授業も教室での対面授業も特段の傾向差はなかった。元々オンラインによる授業は、感染症拡大に対する緊急避難的な対策であり、通信制等の特例を除き「大学の授業は教室で実施することが当たり前」という教員側の無意識な常識のようなものは学生側にも同様に受け入れられていると言えるのかも知れない。感染症拡大沈静化後も、時間割配当の柔軟化等のメリットがあり、「対面とは遜色ない内容・水準の授業を提供する」というオンライン化の原則に基づいて、一定の科目をオンラインで提供してきたが、それが本当に良いことなのか見直す必要があるのかも知れない。今後も対面授業とオンライン授業のより詳細な比較等について、更にしつかりと検証していく必要があるのではないかと考えられる。

#### 参考文献

- (1) 阿部一晴：「同一科目の教室での対面授業とオンライン授業による受講生の授業評価の比較」, 教育システム情報学会, 第49回全国大会講演論文集, pp.79-80 (2024)
- (2) 阿部一晴, 酒井浩二：「学生の対面授業とオンライン授業に対する評価の比較」, 情報コミュニケーション学会, 第21回全国大会発表論文集, pp.96-97 (2024)
- (3) 阿部一晴：「対面授業とオンデマンド授業の受講生によるクラウド型教育コンテンツへの評価比較」, コンピュータ利用教育学会, 2023 PC Conference 論文集, pp.80-81 (2023)